名所發句集二篇　全

103
349

名数ハ其志し深きもの写すもの
一見ふしぎの数々を今図となせハ
かしこきことに枝葉たるふに似たる
仁智勇と共に明鏡の濁りなき絵を
胸中の絵をも思ひ出すへし

菁莪堂主人山以長

明鏡水も濁らぬ
時代の絵なれ

以長又号
如蓮人

近江國
石山寺

近江國八景

美濃國 養老瀧

養老の瀧ハ 奥ハ岩の上 之山さしけり
見えて落て都の
きこえたる古事一種
養老の名をかり
泉や瀧のうへ卓池
としかおや業れハ
明く夜と豊瀧ニ
一のまへつとし家瀧の
佳居乃郡良補
うらひ春の西宮 見ニ
あけまさきちまき
養の老の瀧
うらくや
ホ下寫 梅室

飛騨國（ひだのくに）
乗鞍嶽（のりくらがたけ）

信濃國
姨捨山
田毎月

上野國
榛名山
伊香保冨士

下野國
日光山
大谷川

陸奥國
松島
鹽竈明神

松島 其二

出羽國
鳥海山

投なるゐ
いのるまて
鍬く
門田かれ
見外

花の庭ふ浅き網に出てゆるし行也　梅理

凍のけて長閑に引や山の裾　仝

名月や坂下りすれハ寺の門　仝

海くらし月ハ芦やに浅の底より　黄山

穂芒や山の汁踏て流ぐひ　我竟

引汐や泡立すり素秋の暮　李曠

山ゝの汁の泡に出るやゝ后の月　三省

何かふまへ同し露や芋の葉　其角

むつましき月や山家の案山子　大年

秋霧や朱かく秋は假殿　鶯志

よし切や川のうちそと松明方　芳臺

水草の垣も蒲て織布しの花　而后

池二ツ並んて晝しほゝきゝ　仝

持出して傍打際や秋ちかし　仝

大火焚野中の家や夢は雲　石柔

餘所ほしき程ハ出けり野菜ハ　一甫

乙鳥や筏の筋を行處り　梢下

吸物を根に蝸きて峰さゆる　勝山

一汐によりそて綠や浦千鳥　仝

土橋朽ちて遊ぶ蓑の子ハ　君白

川鳴は落葉にまさる堂舟哉　蕾雨

吹つゝ手さし大柳を見直て見　雪朗

晨明ハ雲へのそてよき清うれ　仝

哺や石山並ひ杉斗　成蒙鼓

螢の蛟は中に木樵の許うれ　谷水

遠柳水のうら萎てみえ渡る　仝

今日は自旅を我を惜て笑　仝

苗をよそに蝶の業曜や水の上　成丸

杖の先にあらしてみゆる毛出ハ　仝

湖山の宵に荒さまるしられ哉　仝

明ける月の黄なるや梅乃花　下サ非田　梅渓

正月や膳に目出度物数　仝

咲とさや藥のはなになりぬ孫春子　仝

建石としる庵の笠や梅の花　素風

人声のとゞかぬ清行笠の紅　仝

野路菜もひとつ八座の使来　仝

黒塚や昔なつかしも霞寒し　奥会津　市山

荷なふや霊ある水濱の町　仝

梅渓

大橋重雅先生書
東海道往來 全一冊
大橋重幸先生書
附り 書札集

大橋重政先生
大橋重雅先生
西村重幸先生
大橋三毫集 全一冊

前北齋為一改 狂画老人卍筆
富嶽百景 全三冊

溪齋英泉筆
諸國名所画譜 初編出版 二編出版 三編四編追々出版 全四冊

城山輿利先生著
量地弧度算灋 上下二巻 附録一巻
懐中便利折本仕入

旭山齋藤先生閲
東理齋藤宣義著
算法圓理鑑 全一冊

佐藤氏之助著
奇魂 一名尚古鑒賞典 初編 全二冊

笠亭仙果作
一勇齋國芳画
幼稚源氏東の初旅 五編 近日出版

東都書肆
今川橋南本銀町二丁目
東海堂 永樂屋丈助

俳諧五七集 全五冊
枇杷園士朗翁著

士朗叟生涯俳諧の發句数篇を集め選りけり中に二十あまりを撰て五七集と号く先生一世の風雅を尽されしハ此書にて其翁の風調深く此序に於て悉く實に俳諧の大切ありて無理ともなく[illegible]

枇杷園類題發句集 初篇二篇 全二冊ツヽ
梅花園先生撰輯

士朗翁一世の發句集なり四季雑くも分類をわかち類毎に数多の發句を集めて別て初心の作者に句を作るべきうつ尤要用の書なり

諸國名所發句集 初篇出板 佳本精製 全四冊
二篇三篇四篇續而出板
田喜庵護物翁校
田桂園護岳大人輯
溪齋英泉翁画圖

此書ハ大日本六十余州の名所風景に美景翁[illegible]の序を記し[illegible]其余画工ハ英泉の筆にて[illegible]の句を撰し初篇より[illegible]彫刻出来發市せし諸名家[illegible]風流の雅君[illegible]て居ながら名所を知るの必要画なる初心の幼童山水を画く一助となる[illegible]